

# 市政活動報告

文責 井手口良一（おおいた民主クラブ代表）

## 新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。

二十一世紀も10年目の節目を迎えました。昨年を象徴する文字は「変」でした。変化の変だったのでしょうか。変人の変だったのでしょうか。ともあれ、わたし達は目の前の大不況の大津波を乗り越えなくてはなりません。

二十世紀が戦争と経済復興、つまり破壊と建設の繰り返しの世紀だったことは、間違いないところです。では今世紀はどうでしょう。この十年、バーチャル経済と金融バブルに終始した挙句、そのバーチャル（虚像）が消え、バブル（泡）がはじけてしまいました。

その上、アルカイダやタリバンという鬼っ子達が生まれてしまいました。無人の偵察機に感知され、高々度からミサイルで狙い撃ちにされながらも戦い続ける、若いタリバンの意気は軒昂であり、我と我が身をこっぽ微塵にする自爆テロリスト達は後を絶ちません。そしてその鬼っ子達にも、親がおり、体を熱い血が巡り、愛する人がいるはずだということをわたしは忘れることができません。

今こそ、世界中の全ての人々が、立ち止まり、ふり返り、人生や生命や幸福や家族愛などを再確認して、見失った自分を取り戻し、経済成長の見返りに喪失した人間性への回帰を、模索するべきではないでしょうか。

現況を誰かのせいにすること、誰かを悪者にすることは簡単です。しかしそれでは何も解決しません。テレビの「竜馬伝」の初回で主人公が「憎しみからは何も生まれない」と言いました。ならばわたしも言います。「諦めては進む道は見つからない」と。

今年一年、それぞれの生きる場で、精一杯の力を發揮し、お互いに声を掛け合って視界を広く保ち、家族を、隣人を、そして友人達を信じ、愛することを通して、この未曾有の大津波を克服しようではありませんか。

井手口良一



平成21年12月4日午前10時より登壇

## 視点・論点・問題点

### 12月議会一般質問報告

鳩山新政権は地球温暖化防止に関する国際公約を打ち出しました。そこで、今回はその新政権の基本姿勢を踏まえながら、温暖化防止についての大分市の基本的な考え方を論議しました。

産業界は今回の鳩山政権の決定は、国際競争力をそぎ、自らの首を絞めるものにはならないかと危惧しています。また温暖化効果ガス削減は我々のライフスタイルそのものにも密接に関係しています。

地球環境そのものが破綻しかねない状況にある今日、目の前の利益や糧を確保することだけを優先することも、誰かに責任を押し付けて、自らは対策に手をこまねいていることも許されません。

現在の地球上に暮らす我々人類の全てがこのかけがえのない地球の未来に対して、平等に且つ公平に、

その責任を分担せざるを得ないです。わたしは政府の2020年段階での1990年比温暖化ガス25%削減という目標値を、日本が環境立国を目指すための決意表明と考えています。

**質問1.** 2020年の排出レベルを1990年に比して25%削減とした新政権の国際公約を、大分市としてどのように捉えているのか？

**環境部長答弁** 政府の目標がわが国の地球温暖化を阻止する強い姿勢を示すとともに、主要国間の合意形成を進める上で、大きな役割を担うものとして期待している。

**井手口の視点** その昔、米国にマスキー法という環境対策法がありました。その法の成立が日本の自動車産業界に与えた衝撃は確かに大きかったのですが、日本はそれを克服したばかりでなく、かえって当の米国の自動車生産技術を凌駕し、今日の国際競争力の礎を築いたという歴史的事実があります。地球環境を守るため、自ら率先して厳しい自己規制をかけることこそが、すべての産業にとって今後の更なる技術革新を生み出すジャンプボードになります。

**質問2.** 大分市は今後、地球温暖化対策について、地域の産業界との関係をどうするのか？

**環境部長答弁** 国の動向を注視しながら、地球温暖化対策が環境ビジネスや地域の活性化につながるよう産業界と積極的に連携していく。

**井手口の視点** 大分市は基幹産業から先端産業まで産業集積の進んだ都市です。温暖化効果ガス削減の論議は地域経済の将来を左右するといつても過言ではありません。

大分市と地域産業界が地球温暖化という人類の危機を克服し、大分市の地域経済を磐石にするために

は、近未来を見据えた環境対策と環境ビジネス構築のための、総合的な視点を共有することが求められます。

環境ビジネスやスマートグリッドネットワークを新たに構築し、そのために必要な関連資機材、周辺機器の新しい製品開発・技術開発と、市場の増大を先取りできる体制を整えてこそ、大分市が次の時代においても、産業集積都市としての地位を確保できます。

米国でオバマ大統領が提唱しているグリーンニューディール政策は、大分市にとっても未来を開く重要な戦略なのです。重要なのは、大分市と地域産業界とが地球温暖化対策について、監視するものとされるものとの関係ではなく、地域社会を担う同志として、ともに同じテーブルに着くことです。地域社会が一丸となって、大分市版グリーンニューディール政策とも言える積極的なアクションを興すべきではないでしょうか。

**質問3.** ごみ収集のための大分市のゴミ収集車の一日あたりの総走行距離とそのための燃料消費量は、直営、民間委託分を合わせて合計いくらか？

**環境部長答弁** 家庭から排出されるゴミを収集するため、直営81台、民間委託分41台、合計122台のゴミ収集車が稼動し、その一日当たりの走行距離は11,434 kmとなっている。

消費する燃料は同じく一日当たり、軽油2,097リットル、LPGガス331リットル、CN（圧縮天然）ガス25リットル、ガソリン38リットルとなっている。

**井手口の視点** 直営を民間に委託するだけでは消費燃料の削減にはなりません。バイオ燃料などの代替燃料で走る車両の導入なども有効でしょうが、走行距離の絶対量そのものを減らす視点が重要です。今後、合理的なごみステーションの配置や収集回数の見直し、新しい分別方法の導入などを総合的に検討していかなくてはなりません。そのためにも市民の皆さんのが協力は不可欠です。

**質問4.** 大分市の清掃工場の更新についての将来計画は？

**環境部長答弁** 佐野の清掃工場を取り巻く環境面、コスト面への視線は大変厳しいものとなっている。環境部内にプロジェクトチームを立ち上げ、清掃工場の今後のあり方、方向性、将来的な建設計画を検討して行く。

**井手口の視点** ゴミの処理の際に排出されるCO<sub>2</sub>の削減策も重要な視点です。大分市は現在、ゴミ処理のための清掃工場に二つの方式を取り入れています。すなわち福宗清掃工場におけるストーカー方式と、佐野清掃工場におけるシャフト式ガス化熔融炉方式ですが、問題は後者です。

わたしたちはダイオキシンという猛毒の環境汚染物質の存在に脅かされるあまり、そのダイオキシンの発生可能性の一番低いゴミ処理施設として、シャフト式ガス化熔融炉方式を佐野清掃工場に導入いたしました。

その決定については、わたし自身も当然ながら責任を負うべき立場にあります。コークスを熱源とする溶鉱炉と同じ原理でゴミを燃やすシャフト式ガス化熔融炉の導入に、今更ながらわたし自身、機種選定当時の不明を恥じ入っています。

**質問5.** 大分市では今後、どのような計画で受電施設の省エネ型への転換を図っていくつもりなのか？

**財務部長答弁** 今後、耐用年数や設備の老朽化などを考慮しながら、計画的に更新していく。建て替えとなる大南、坂ノ市両市民センターと野津原支所は最新の省エネ型に更新する。

**井手口の視点** 省電力対策もまた温暖化防止に含まれると国際的に認知されています。従って、大分市が地方自治体として地球温暖化対策への行動指針

を打ち出そうとすれば、率先して自らを省み、全庁挙げて、あらゆる部門での省電力対策を検討しなくてはなりません。大分市の多くの施設の受電装置は省エネ型ではない旧型です。わたしが以前、その導入を提唱したアモルファス型よりも、最近ではさらに省エネ型の受電装置が開発されています。

**質問6.** 大分市では大分市の有する全ての施設で、可能な限り太陽光発電施設の導入を図るべきと考えるが当局の考えは？

**財務部長答弁** 設置可能スペースや発電効率、国が進める研究開発の推移などを考慮しながら、導入を進めていく。

大南、大在、坂ノ市支所は市民センター整備事業において、太陽光発電設備を設置する。

**教育部長答弁** 新設校や新たな施設には設置してきた。今後も校舎の耐震化や児童生徒の増加に伴なう増改築の際に設置するよう計画していく。

**井手口の視点** 太陽光発電は温暖化効果ガスをまったく発生しない発電方式です。その上、太陽光発電を普及する事によって、ピーク時の消費電力による発電所への負荷を軽減できます。国の補助事業も充実しています。

**質問7.** 食材に占める地場生産物の割合を目標値として定め、学校給食をフードマイレージの視点から評価するべきでは？

**教育部長答弁** 地場産物使用割合は20年度現在42.7%となっている。これを23年度までに43%、28年度までには45%とする指標を定めている。

この指標を達成することでフードマイレージの削減が図られるものと考える。

**井手口の視点** 地産地消の考え方は今日、地球温暖化対策の一つとしても注目されています。フードマイレージとは食材の移動する距離のことです。あるデータによると日本のフードマイレージ総量は米国の5倍だそうです

地場で生産されたものを消費する場合でも、それがどこか遠くに運ばれて加工された後に、再び地域に戻って消費されるというのであれば、フードマイレージは大きくなります。

例えば米粉の場合、原料米は確かに地元産のですが、その原料米を米粉に加工している場所は大阪です。フードマイレージとしての評価点は低くなります。

米粉を小麦粉の代替材料とすることはフードマイレージの観点からも、日本の農業を守る上でも重要な施策とわたしは考えています。先祖代々當々と守り続けてきた折角の美田に、はじめから家畜に食べさせるために米を植えさせる飼料用米奨励施策などは、天に唾するがごとき愚策といわざるを得ません。それに比べて米を粉にして食するという新しい食文化が定着することは、新しい時代に即した日本の農業を志向するための最重点項目の一つであるとわたしは断言します。

一日も早く、大分県内で生産された米を原料とし、大分市内で製粉化された米粉を使ったパンを、学校給食に供給できる体制を確立することが求められています。

**質問8.** 市有林の総面積とそのうち人工林の樹齢構成割合は？

**商工農政部長答弁** 市有林の面積は696.16ha、そのうち大分県や大分県森林整備センターに管理を委託している分収林をのぞくスギ、ヒノキの人工林は217.14haである。

樹齢構成は20年生以下が17.85ha、21年から50年生までが181.28ha、51年生以上が18.01haであり、人工林の内約92%が50年生以下の森林となっている。

**井手口の視点** 森林はCO<sub>2</sub>の吸収に大きく貢献しています。大分市は産業集積都市でありながら、周辺部に広大な面積の森林を有する、緑豊かな森林都市です。

しかしながら、植物生態学の常識として成熟した森林のCO<sub>2</sub>吸収力は、成長期の若い森林と比べて大きくありません。従って、大分市としても市有林をCO<sub>2</sub>削減効果の点から管理するとすれば、成長期にある森林の割合を増加させる必要があります。

森林面積の総体を増大させていくことも、CO<sub>2</sub>対策、地球温暖化対策として重要であることは論を待ちません。しかしながら、どの樹齢で更新すれば、最もCO<sub>2</sub>削減効果を上げることができるかの論議も重要です。

市有林の持つ炭素固定特性を地球温暖化対策に活用するため、大分市として今後の森林経営をどうすればいいのか、引き続き、わたしなりの調査研究を進めてまいります。

**質問9.** IT機器の省エネ化についての今後の方針は？

**企画部長答弁** グリーンITの取組を進め、新規導入や機器の更新に当たっては、環境負荷の少ない省電力型や低発熱方の機器を選定するなど、省エネ対策を進めていく。

**井手口の視点** 今日、IT化は官民を問わず組織や事業の合理化の至上命題と化しています。一方で忘れがちなのは、そのIT機器も電力という形のエネルギーを消費しているということです。IT化を推進するとともに、そのIT機器自体に省エネの観点からの検証をすることも必要です。

**質問10.** 大分市の発注する工事に使用するコンクリート2次製品を、全て市内調達することを発注仕様書で義務付けるべきでは？

また大分市のすべての工事の施工の際、施工管理

から成果品の引き取りに至るまでの評価点の要素に、このカーボンマイレージなど温室効果ガス削減への取り組みを取り入れる考えはないか？

**総務部長答弁** 現状では建設工事請負業者に、工事材料の調達先を市内業者とするよう努力義務を科しているが、選定された業者が全て大分市内で製品を製作しているとは限らない。市内工場からの調達を努力義務とすることについて今後検討する。

建設業者における環境配慮行動への取組は大変重要であり、積極的に取り組む業者を後押しする観点から、総合評価落札方式の技術評価点に、温室効果ガス削減の取組を取り入れることを検討する。

**井手口の視点** バラ積みの可能な砂利や砂、コンクリートなどの原材料の輸送コストと、一度製品化されたコンクリート2次製品を長距離輸送する場合のコストを比較すれば、成形されている分、後者が比較にならないほど高くなることは明白です。従って、大分市としてカーボンマイレージの観点に立てば、コンクリート2次製品などを、可能な限り大分市内から調達するべきなのです。

その他の質問：環境問題のほか、今回は工事入札の際の落札最低制限額制度の在り方について。市の機構の内、企画部企画課の存在意義についてなどを取り上げ論議しました。



民社協会結成50周年記念議員団会議にて

## コラム 「生物の多様性の保全」とは？ 井手口良一

唐突な言い様になりますが、わたしとスギの木は親戚です。あなたとイチョウの木も親戚です。親戚はそれだけではありません。ゾウともクジラともヤマユリの花や孟宗竹だって、わたし達の親戚なのです。

生命の起源については、タイムマシンに乗って40億年以上も昔の地球に行ってみなければ、確かにところは分かりません。しかしながらこの地球上のどこかで、相次いで生まれた原始生命体が、今日地球上に生きとし生けるすべての生物にとっての、共通の先祖であることは間違いないところです。

40億年前から今日に至るまでの生物の進化と分化の道筋のどこかで、ずっとつながるレールの上の列車が、転轍機で分離されていくようにして、生物の種が分かれ、その結果として多様性が発達してきたということになります。

わたし達はわたし達の親戚に囲まれ、それらを食らうことで、命をつないできました。これまで何億回か親から子へと命のリレーを繰り返して、わたし達の今があるとも言えます。

トキやコウノトリだけではなく、ハサミムシやダンゴムシだって、タンポポやクスノキだって、ずっとずっとさかのぼれば、わたし達と同じ親から生まれた兄弟だったのです。そのことを想うだけで、わたし達自身の手で、わたし達の身の回りの生き物たちの多様性を損なうことが許されないことは、すぐに理解できます。なぜなら、すべて生き物はこの地球の歴史のどこかの頁まで遡れば、わたし達と兄弟だったのですから。



## 議員活動日誌

(10月1日～12月31日)

10月

- 2日（金）大分市戦没者慰靈祭
- 3日（土）大分市立金池小学校運動会
- 6日（火）自治基本条例検討委員会
- 7日（水）臨時議会
- 8日（木）大分県市議会議長会主催研修会
- 9日（金）大分市農業委員会地区審議会  
大分市農業委員会農政部会
- 29日（木）執行部（駅周辺事業）からの政策説明

11月

- 2日（月）大分市農業委員会建議伝達式
- 3日（火）文化の日表彰式
- 4日（水）議会運営委員会行政視察（福島市）
- 5日（木）議会運営委員会行政視察（静岡市）
- 10日（火）大分市農業委員会地区審議会  
議会主催市民からのご意見拝聴会
- 12日（木）大分県（駅周辺整備事業）への陳情  
執行部（都市計画部）からの政策説明

13日（金）執行部（下水道部）からの政策説明

17日（火）会派行政視察（埼玉県熊谷市）

18日（水）会派行政視察（沖縄県沖縄市）

19日（木）会派行政視察（沖縄県那覇市）

24日（火）大分市農業委員会県内視察研修

27日（金）自治基本条例検討委員会第1部会

30日（月）第4回定例本会議

12月

1日（火）執行部からの上程議案内容説明（会派）

大分市農業委員会臨時総会

2日（水）執行部からの上程議案内容説明（会派）

3日（木）議案考案日

4日（金）議会本会議（一般質問に登壇）

7日（月）議会本会議

8日（火）議会本会議

9日（水）総務常任委員会

10日（木）総務常任委員会

11日（金）総務常任委員会管内視察

大分市農業委員会地区審議会

13日（日）県内政務調査（国東市）

14日（月）議会本会議

22日（火）自治基本条例検討委員会第1部会

# あすなろ

「あすなろ」第37号

発行者 良友会 発行責任者 井手口良一 事務局・大分市府内町1-4-16河電ビル3階303号室

電話番号 097-537-0556  
FAX番号 097-533-9668

## 新年のご挨拶

良友会の皆様、明けましておめでとうございます。

昨年はリーマンショックに明け、政権交代が一時の希望をくれましたが、ドバイショックでまた、不況の寒波が骨身に染みる年の暮れでした。

不況の時こそ、市議会議員の出番は増え、またその有難味も増すのではないかと想う。

井手口市議への市政への市民相談や、行政執行上の矛盾や不備を訴える陳情や申し入れも、多岐にわたって増えているそうです。

わたしども有権者は選挙の時にこそ、その存在が注目されるだけですが、実は日頃から、わたし達が投票して当選した議員や首長が何をし、何を目指し、どこへ我々を導こうとしているのかを、監視し注文をつけなくてはならないはずです。そのために良友会はじめ政治家の後援会があるのではないかと想う。

幸い井手口市議はわたし達の話をよく聞いてくれます。またよく市政報告をしてくれます。良友会主催の各種イベントや集会、勉強会の時だけでなく、気軽に事務所や議会の控え室を訪問して、市議へわたし達の思いや、市民生活上の不満を話しましょう。

今年も良友会の活動にご理解いただき、井手口市議をご支援いただけますよう、お願ひいたします。

良友会代表代行  
足立雅直



## 民主党の新3K問題

都町次郎

新3Kとは景気、基地、献金の三つの問題の頭文字、いずれも民主党というよりは、今の日本にとっての喫緊の課題であることには間違いない。自分たちのしてきたことを棚に上げて、とやかくいう自

民党の厚顔無恥には呆れるほかはないが、新政権のこの3Kをめぐる混迷ぶりも情けない。

景気は日本一国の問題ではないし、弱肉強食も、バブル（泡）やバーチャル（架空）ももうこりごりというのが正直なところ。基地問題は単に普天間基地の移転先の問題ではない。この際、日米安保の本質と日米地位協定という治外法権をどうするのかを考えるべきだ。こちらの2Kには小手先の解決策などないことを、国民はとっくに知っている。

献金問題だけは党首（首相）と幹事長という政党の車の両輪が、それぞれパンクしているようなもの、タイヤを換えるのか、急いで修理するのか、国民は固唾を飲んで見守っている。政治にまつわる金の問題は今に始まったことではないが、それをきれいにして見せると民主党は言ってきたはずだ。

3Kのいずれにしても、問題の本質を解明し、道筋を指し示し、解決までの行程と時間を明示してこそ、政権の責任が果たせるというもの。ドタバタ劇やっている余裕は、今の日本にも世界にもない。

## 編集者より

都町次郎は特定の個人のペンネームではありません。複数のジャーナリストによるリレーコラムのための架空の人物です。いわば月刊誌「文芸春秋」のコラムニスト赤坂太郎氏の兄弟というふうにご理解下さい。市政の裏話や歴史に衣着せぬ批評をお願いしています。ご期待下さい。

## 活動日誌

(平成21年10月1日～12月31日)

(市議会議員の活動を除く)

10月

- 2日（金）旭メディカル労組定期大会
- 3日（土）U I ゼンセン同盟大分県支部定期大会
- 5日（月）サウダーチ（女性）の会フォーラム
- 9日（金）行政執行に関する市民相談

26日（月）行政執行に関する市民からの陳情聴取  
29日（木）行政執行に関する市民からの陳情聴取  
　連合大分20周年記念式典  
31日（土）つかさ会例会

#### 11月

1日（日）博愛会創立60周年記念式典  
　U I ゼンセン大分県支部議長送別会  
2日（月）行政執行に関する市民からの陳情聴取  
6日（金）民社協会議員団研修会（東京）  
　民社協会50周年記念式典  
9日（月）行政執行に関する市民相談  
　フジボウ組合定期大会  
10日（火）行政執行に関する市民相談  
11日（水）野分け会例会  
12日（木）行政執行に関する市民相談  
　日本感性教育学会大分県支部例会  
13日（金）イオン九州大分ブロック支部長会議  
14日（土）愛媛街道健康ウォーク  
15日（日）ワイン博ワインセミナー  
16日（月）ジョイフル定期大会  
22日（日）岳父一周忌法事（東京八王子）  
24日（火）市役所職員高校同窓会  
26日（木）行政執行に関する市民相談  
29日（日）士道館空手道大会  
30日（月）行政執行に関する市民相談

#### 12月

2日（水）野分け会忘年会  
4日（金）安藤調剤薬局忘年会  
7日（月）大分県友愛会議会報告会・情報交換会  
8日（火）秦野泰義議員自治功労賞受賞祝賀会  
10日（木）22日会例会  
12日（土）日本感性教育学会大分県支部主催ワークショップ  
　日本感性教育学会大分県支部忘年会  
　つかさ会忘年会  
14日（月）議員団スポーツクラブ納会  
15日（火）市役所南小会忘年会  
18日（金）のつはる会忘年会  
19日（土）赤十字奉仕団一椀茶ボランティア主催チャリティー茶会  
20日（日）大樹会忘年会  
22日（火）行政執行に関する市民からの陳情聴取  
　おおいた民主クラブ忘年会  
23日（水）大分市ホームタウン推進協議会街頭募金運動  
26日（土）謙誠会博愛病院忘年会  
28日（月）ばん友会事務局会議忘年会

## 会費の納入と会員拡大のお願い

良友会の活動の拡大のため、この市政報告、あすなろを多くの方に読んでいただきたいと考えています。ご友人、職場のご同僚の方、ご家族などをご紹介いただければあすなろをお送りします。

もちろん新しい会員をご紹介、ご勧誘頂くことも併せてお願ひいたします。どうぞよろしく。

会費 一般会員（年間・1口）1,000円  
　贊助会員（年間・1口）10,000円

良友会名義の口座番号

大分銀行 上野支店 「いでぐち良一後援会」良友会 5036576

豊和銀行 上野支店 「いでぐち良一後援会」良友会 1035694

郵便局 「いでぐち良一後援会」良友会 17290-12491381



- ① 2月12日大分ファンタジー点灯式の当日の6時台と8時台のガレリア竹町。折角の催事も年末商戦の最中に大分屈指の商店街がこれでは悲しくなります。
- ② 大分気象台の中にある秋の黄葉の標本僕のイチョウの木です。大分の秋はこの木から始まります。
- ③ 戸次地区嶺の丘の上に立つ長宗我部信親の顕彰碑 戸次の大野川河畔で大友軍と島津軍の間で戦われた戸次川の合戦で、四国から援軍に来ていた長宗我部家の嫡子信親が若干22歳で戦死しました。この顕彰碑には昭和59年に建立され、信親を偲ぶ森鷗外の漢詩が刻まれています。
- ④ 松平忠直卿（一伯公）の墓 井伏鱒二の小説で有名な一伯公は徳川家康の孫（結城信康の長男）で越前北の庄（現在の福井市）の二代藩主でしたが、罪を得て豊後に配流され、滝尾のこの地で暮らしました。

### 編集後記

憲政史上初めてといえる選挙による政権交代後初めての新年、今を明治維新になぞらえて見るのも一興です。明治初年の明るさは今望むべくもありませんが、昭和初年の物狂いだけは勘弁してもらいたいものです。（I）